

令和2年度の自己点検・自己評価
に対する学校関係者評価報告書

学校法人 赤門学院
専門学校 赤門自動車整備大学校

第六回 学校関係者評価報告書

設置者	学校法人 赤門学院		
学校名	専門学校 赤門自動車整備大学校		
会議名	第六回 学校関係者評価委員会		
開催日時	令和3年2月25日（火） 14:00～15:30		
場所	宮城県仙台市青葉区川内川前丁61 専門学校赤門自動車整備大学校 3階会議室		
出席者	＜学校関係者評価委員＞		
	阿部勝自動車工業株式会社	代表取締役社長	阿部 勝敏
	宮城スバル自動車株式会社	東北統括本部技術支援課課長	藤枝 義寛
	＜学校事務局＞		
	専門学校 赤門自動車整備大学校	理事長・校長	國分 活妙
	専門学校 赤門自動車整備大学校	全科教務指導長	福原 祥之
	専門学校 赤門自動車整備大学校	広報副室長	阿部 慎也
	専門学校 赤門自動車整備大学校	事務長	石川 良昭
	※出席者：6名 欠席者：なし		
	＜その他＞		
	専門学校 赤門自動車整備大学校	副校長	國分 龍人
	専門学校 赤門自動車整備大学校	2・3級科教務指導長	佐藤 信也
	専門学校 赤門自動車整備大学校	職員	早坂 義之
	専門学校 赤門自動車整備大学校	職員	宍戸 茂樹
会議内容	<p>＜次第＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会および理事長挨拶 2. 自己評価の結果について説明 3. 自己評価の結果について審議 4. 閉会 <p>＜審議内容について＞</p> <p>(1) 教育理念・目標 学校の理念等は学生便覧に記載しており、学生・教職員に周知を行っている。留学生には学生便覧に載っていると言うだけでは通じない。その中で留学生に対しても浸透するようにするために分かりやすくする必要がある。これは社会人としてのマナーを身につけるための最初の一步である。</p> <p>(2) 学校運営 教職員の仕事量が増えてきているため、情報システム化等による業務の効率化は必要不可欠であり、働き方改革にもつながる。</p> <p>(3) 教育活動 業界の最新動向等を把握して教員の人材育成やカリキュラムに取り入れる。経験の少ない先生が多くなってきているため、研修会の見直しも必要ではないか。同時に役割分担を明確にして、教員一人一人の負担の削減を図る必要がある。合わせて、積極的に人材を採用していく。</p> <p>(4) 学習成果 自己評価については妥当であるが、留学生には面接を含めた就職活動の意味をもっと理解してもらう必要がある。また、面接の不得意な学生もいるため、先生と話しが出来るようにコミュニケーションを密にすることが改善につながるのではないか。</p>		

(5) 学生支援

学生の健康管理については、コロナの陽性者を最小限に食い止めることができたので今後も対策を続けていく必要があり、引き続き重要な事項となる。一方、職員室への入室に抵抗がある学生も見受けられ、就職等の相談を担任経由で相談するケースが多いため改善も必要である。

(6) 教育環境

施設・設備の老朽化が進んでいる。教材の必要数は備えているが、現代の自動車に対応していない教材もある。インターンシップについては、昨今のコロナ過により、リモートでの会社説明会への変更等が進んでいる。特記事項として、避難訓練の実施や消火器の使用方法について学生に説明を行っている。また、実習場の整理整頓を行い避難通路の確保を行っています。防災マニュアルについては学生便覧に記載されており周知徹底を図っている。

(7) 学生の受入れ募集

日本人学生の入学者を増やすこと、コロナ禍の終息が見えない状況であるため、コロナ禍における募集活動の進め方や留学生の継続的な入学者確保も行わなければならないこと、これらが課題である。日本人学生に関してはテレビCMを放送し、知名度向上を図る。さらに高校1・2年生のガイダンスにも積極的に参加し、早い段階で意識を植え付け、そこから学校見学会の参加者を増やす。さらに、オンラインでの説明会も強化していく。

留学生に関しては生活指導や就職・国家資格取得へ向けた指導を徹底的に行い、学校の評判を落とさないこと。また、整備士就職率100%を継続する事が大切である。

(8) 財務

全教職員が、「財務基盤の安定には、入学生の増加が不可欠」、という意識を常に共有している。そしてその結果、入学生も確実に増加してきている。ただ、予算や特に監査となると、どうしても理事会頼みにならざるを得ないことが課題である。今後、専門職大学の設置も関わってくるため、ホームページ上の情報公開のほか、計算書類及び役員等の名簿などの閲覧が希望をすれば誰でも可能である、などの情報を事務方から発信し、特に理事会等に関しては、もっと全教職員に対して開かれたものにしていく必要がある。

(9) 法令等の遵守

個人情報の取り扱いやウイルス対策ソフト管理についてのルール設置、さらにパソコンのウイルス対策とOSのアップデートが不十分であることから、ウイルス感染のリスクを回避していくための対策も必要である。

(10) 社会貢献・地域貢献

社会貢献、地域貢献を踏まえた学校の活用方法を検討する必要がある。

(11) その他

スケジュールが厳しい中、皆様のご協力により無事取りまとめることが出来たことに感謝を申し上げます。自己評価表に回答した教職員の中には、評価点を一部付け忘れ等もありましたが、概ね回答されていると判断しました。今後の課題としては、自己評価表に記載されている「課題」を解決するために「今後の改善方策」をどの位実行できるかと考えております。そのためにも、まずは私自身が教職員の方々からいろいろとお聞きして、理解を深める努力をしていきたいと思っております。